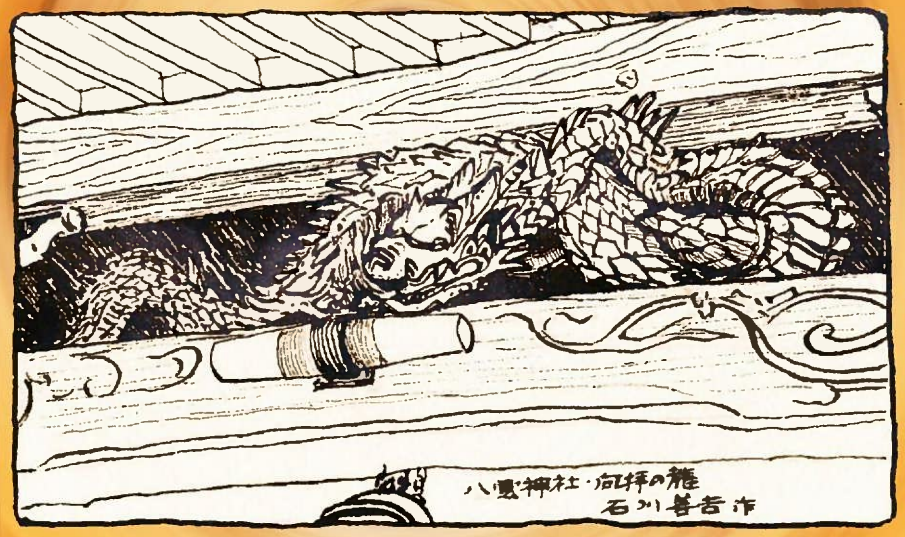
浦賀の鏝絵



浦賀探訪くらぶ

浦　賀　の　鏝　絵

■未来に残したい　浦賀の鏝絵……1

西浦賀：西叶神社・社務所玄関欄間壁「司馬温公の甕割り」……2

西浦賀：東福寺・本堂正面軒下小壁「龍」ほか……3

西浦賀：常福寺・本堂正面内陣欄間壁「竹林に虎」ほか……6

西浦賀：常福寺・本堂内陣背面小壁「飛天」ほか……8

西浦賀：川間町内会館・妻壁「鳳凰」ほか……9

西浦賀：大六天榊神社・正面左右壁「昇り龍」「降り龍」……１０

西浦賀：石川秀幸氏宅・中二階小壁「鶴」「龍」「木菟」……１１

東浦賀：法幢寺・本堂正面軒下小壁「牡丹に唐獅子」……１２

東浦賀：八雲神社・向拝「龍」……１３

失われた鏝絵　西浦賀：西叶神社「神馬」……１４

失われた鏝絵　東浦賀：東耀稲荷社・社殿瓦棟軒下段「鳳凰」ほか …１５

■よみがえる名工の技　鏝絵 ……１６

辰巳忠志氏　作品紹介 ……１７

鏝絵の技法・制作工程 ……１９

未来に残したい　浦賀の鏝絵

浦賀は、江戸時代に東浦賀は干鰯問屋、西浦賀は回船問屋を中心に商人の町として栄えました。

商人の屋敷や土蔵造りの蔵が建ち並び、漆喰壁を塗る、優れた技術を持った左官職人も多くいました。なかでも川間に住む石川善吉(1855～1945) は鏝絵(漆喰彫刻) の名人と言われた「伊豆の長八」に対し「三浦の善吉」言われ、その名を全国に知られていたといわれます。

善吉をはじめ、息子の吉蔵（九代目)、梅尾（十代目)、岩田徳太郎・辰之助兄弟、善吉の弟子陰山太郎らの残した鏝絵が、今でも浦賀の寺社で見られます。

鏝絵は欄間や壁に漆喰を用いて、鏝で立体的な模様や絵を描く左官の技術です。しかし、漆喰壁に代わりで短期間の工事が可能になり、高度の技術と労力（時間）を要する鏝絵の技を伝える後継者が少なくなっているのが現状です。

従って、現在残されている浦賀の鏝絵は、かけがえの貴重な文化遺産といえます。

石川 善吉

西叶神社

西叶神社・社務所玄関欄間壁「司馬温公の甕割り」

司馬温公は、中国北宋（11 世紀）の政治家・学者。

温公が子供の頃、大きな水がめの中に誤って落ちた友人を、直ちに石でかめを割って救い出した。父親が大切にしていたかめを割ってしまったので叱られることを覚悟しましたが、父親は温公をほめて、改めて人命の大切さを教えたという故事を描いたものです。

ふっくらした丸い顔、活き活きした子供の様子を描いた作品は、名人三浦の善吉の代表作です。

制作年：昭和 5 年(1930)　　制作者：石川善吉(75 才)

東福寺・本堂正面軒下小壁「龍」ほか

本堂正面軒下小壁に、まるで彫刻のようにみえる８点の鏝絵（牡丹に唐獅子・龍・遊女普賢・波に亀・鶴・唐獅子・迦陵頻伽・牡丹に唐獅子）があります。

黄金色の顔料を塗り込んだ漆喰を用いて、題材や構図に変化をもたせるなど工夫が感じられる半肉彫りの作品です。

制作年：昭和７年（1932）　制作者：岩田辰之助(37 才)

「　龍　」

「遊女普賢」

「波に亀」

「　鶴　」

「唐獅子」

「迦陵頻伽」

常福寺・本堂正面内陣欄間壁「竹林に虎」ほか（本堂内・予約拝観）

石川善吉の「虎」と石川梅尾の「龍」は石川親子の競作。本堂内陣に描かれた竜虎図は躍動感にあふれ、今にも飛び出しそうです。

室内にあるため保存状態が良く、鮮やかな色彩の虎には迫力を感じます。

制作年：昭和2年（1927）

「竹林に虎」　制作者：石川善吉（73才）

「　龍　」　制作者：石川梅尾（20才）

「抱茗荷に唐草」

石川善吉・吽の
「唐獅子」
陰山太郎・阿の
「唐獅子」
師弟の競作。

阿吽一対の唐獅子に緊張感を感じます。

「牡丹に唐獅子」　制作者：石川善吉（73才）

制作年
昭和2年(1927)

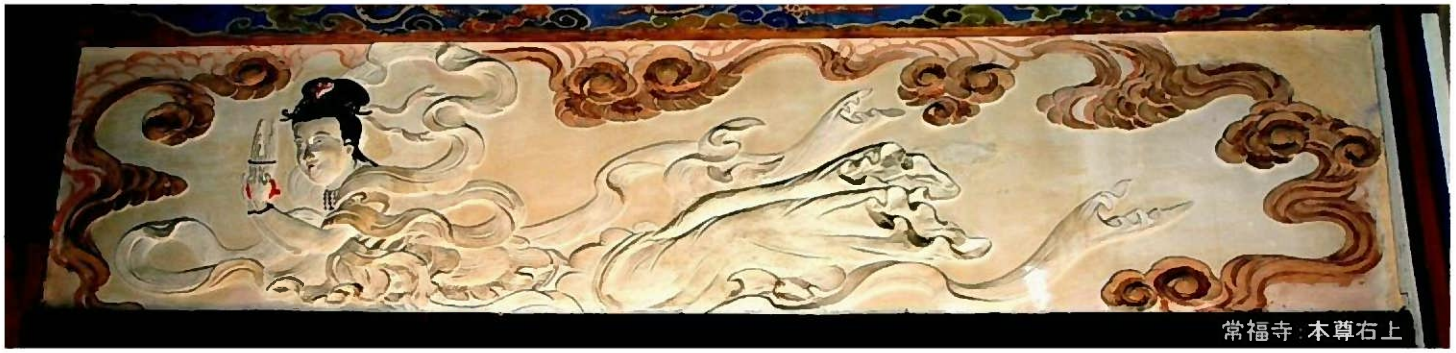
「牡丹に唐獅子」　制作者：陰山太郎

常福寺・本堂内陣背面小壁「飛天」ほか（本堂内・予約拝観）

二人の天女が鶴を挟んで向かい合い、羽衣の裾を翻して優雅に舞っています。

「太鼓を奏でる飛天」制作者：石川善吉(73才)

「　鶴　」制作者：石川善吉(73才)



「笙を奏でる飛天」制作者：石川善吉(73才)

川間町内会館・妻壁「鳳凰」ほか

二階切妻壁に「鳳凰」が、玄関上妻壁に「松竹梅に鶴亀」が描かれ、鳳凰が双翼を広げ飛翔する姿を立体的に壁面一杯に描いています。

松竹梅に鶴亀は、松の大木の左右に鶴亀を配した目出度い図柄で、昭和34年会館新築の際町内繁栄を祝って作られた作品で、大胆で繊細な鏝絵は、石川梅尾の代表作です。

制作者：石川梅尾（52才）
制作年：昭和34年（1959）

2階切妻壁「鳳　凰」

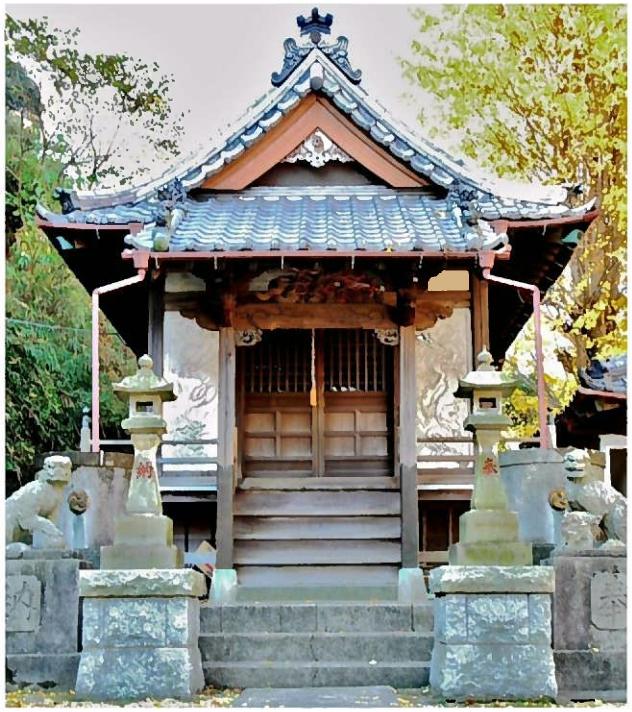
玄関上妻壁「松竹梅に鶴亀」

大六天榊神社・正面左右壁「昇り龍」「降り龍」

「降り龍」石川吉蔵

社殿右壁の作品は石川善吉作の「昇り龍」、左壁の躍動感ある龍を描いた力作「降り龍」は善吉の次男である吉蔵の作品で、父子合作と伝えられています。

近年傷みが激しく修復するのに白色の塗料を塗布したので、漆喰特有の質感が 失われたのは残念な事です。



制作年：不明
（昭和初期と言われています）

「昇り龍」石川善吉

石川秀幸氏宅・中二階小壁「鶴」「龍」「木菟」（拝観不可）

当初は白漆喰の仕上げだったが、長年にわたり囲炉裏や台所の煙でいぶされ、壁面はタール状の黒色を呈し、細部の判別が難しい。

石川善吉28才の作品(伝処女作)ですが、龍の凄味のある表情に名人善吉の片鱗がうかがわれます。

「鶴」

「木菟」
制作年：明治15年（1882）
制作者：石川善吉（28才）

「龍」

法幢寺・本堂正面軒下小壁「牡丹に唐獅子」

岩の上で、一対の魔よけの神獣唐獅子が鞠と紐にたわむれる絵に牡丹を配置した図柄で、二間の壁面に連続して描かれています。

岩田徳太郎、岩田辰之助の合作で工夫を凝らした図柄と鏝さばきから非凡な才能がうかがえる岩田兄弟の代表作です。

制作年：大正15年(1926)
制作者：岩田徳太郎 (34才)
　　：岩田辰之助(31才)

「牡丹に唐獅子」

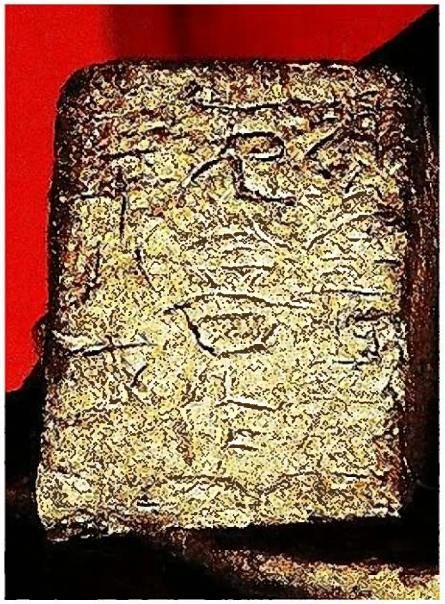
「牡丹に唐獅子」

八雲神社・向拝「龍」

くねる龍身はしなやかで、均整がとれている、彫刻と見間違う出来ばえの鏝絵。

石川善吉 48 才の傑作です。

残念な事に彩色がはげ落ち、破損がひどくこのままでは朽ち果てるのではと心配です。貴重な文化財なので大事に保護したいものです。



作者の銘

制作年：明治 35 年(1902)　制作者：石川善吉(48 才)

失われた鏝絵　西叶神社・「神馬」

浦賀の徳田医院から明治 27 年(1894)に子息の無事成長の祈願をもって奉納されました。神社境内の小屋に納められていましたが、小屋の破損が著しく、2004 年に小屋を取り壊したときに焼却されました。

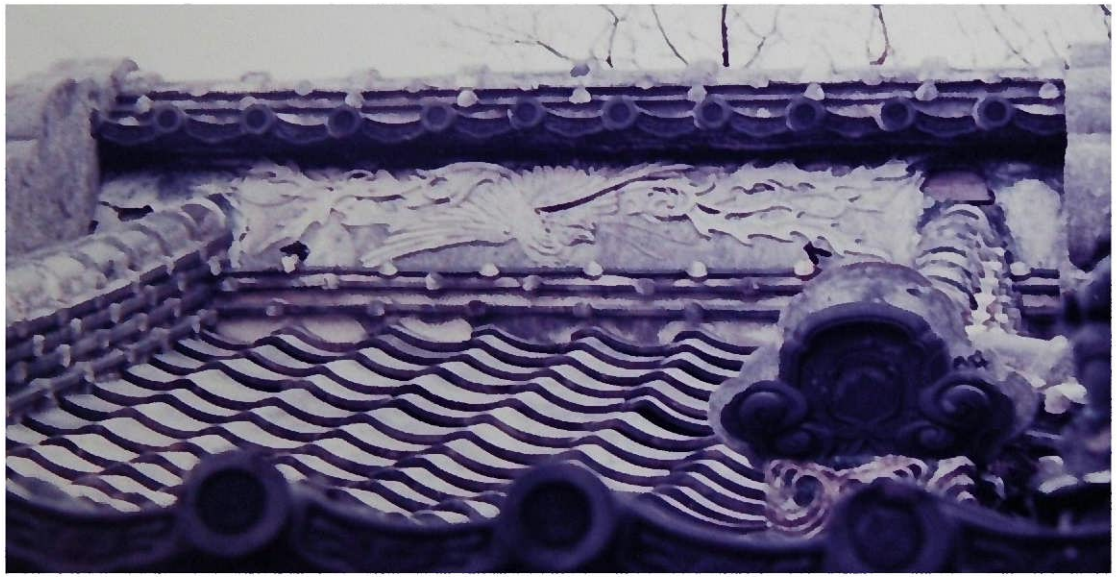
制作年：明治 27 年(1894)
制作者：石川善吉(40 才)

失われた鏝絵　東耀稲荷社・社殿瓦棟下段「鳳凰」ほか（破損）

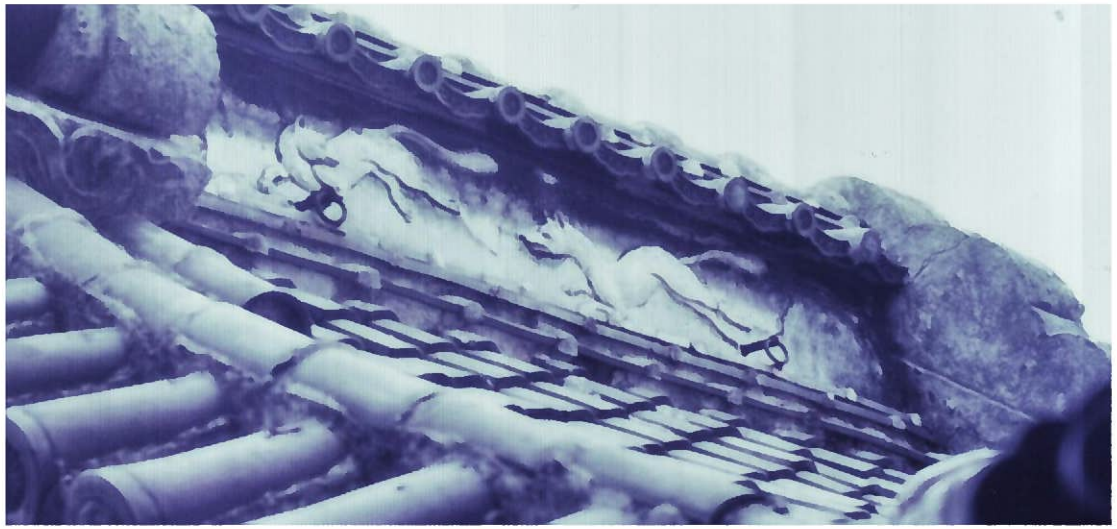
もとは、重厚な瓦棟正面下段に「鳳凰」、背面に「狐２匹」の鏝絵が存在しました。昭和 50 年頃堂内がびしょびしょになるほど、雨漏りがひどく、屋根修理の際、鏝絵を修理出来る技術者がいなく、撤去されました。

掲載の写真は浦賀コミュニティセンター分館所有の写真ですが制作者、制作年が不明とのこと、残念です。

制作年：不明
制作者：(伝)石川善吉
（制作者は石川善吉　石川梅尾・妻トヨ氏談）



正面「鳳凰」



背面「狐２匹」

よみがえる名工の技　鏝絵

浦賀の鏝絵は、昭和の中頃から技を伝える後継者がいなくなり、まさに「消えゆく名工の技」となっていました。

そんな中で、新しい手法を用いて鏝絵の制作に挑む人が現れました。西浦賀在住の左官職人辰巳忠志氏です。

辰巳氏は神戸に生まれ18歳のときに土佐漆喰の棟梁のもとで3年間修行し、その後、横須賀に移り住みました。そこで鏝絵制作で活躍していた左官職人、石川梅尾（1908～1988）に勧められて鏝絵の技法を習得したといいます。

その後、長い間本業の左官職に励んでいましたが、川間の大六天榊神社の鏝絵が傷んできているので修理したいと思い立ち鏝絵の制作を始めることにしました。

大六天榊神社の鏝絵は、梅尾の父善吉と兄吉蔵の合作といわれる作品であり、梅尾の技術を受け継いだ自分がやらねばならないという使命感と健康なうちにやっておかねばならないという思いからでした。

辰巳氏は2010年4月に処女作「鳳凰」を発表して依頼、2010年に11点の鏝絵の作品を制作しています。2011年6月には西浦賀の寿光院の「三命地蔵」という漆喰作りの地蔵尊を修復しました。

制作中の辰巳忠志氏

辰巳忠志氏　作品紹介

辰巳忠志氏は、2010年4月に処女作「鳳凰」を発表以来15点の作品を製作していますが、その大半が、漆喰の質感を活かすため無着色の作品が多く、その意図が見事に活かされた作品に仕上がっています。

2010年8月　「虎」

生き生きとした虎の表情と、竹の写実力が素晴らしい

2011年10月「龍上観音」
漆喰の質感が見事に活かされている

2010年11月　「鷹」

首から羽の付け根・足爪から足の付け根にかけての細かい細工に注目

2010年12月　「夫婦鶴」
彩色した作品で鮮やかに仕上がっている

2011年5月　「富嶽三六景　神奈川沖浪裏」
浪の立体感を表現するのにステンレスの棒を多用している

寿光院「三命地蔵」

木枠に砂漆喰で塗り固めた漆喰作りの地蔵尊でしたが、損傷が酷く補修するのに漆で塗り固めたので、まっ黒に変色していた。

2011年6月「三命地蔵」【修復】
先人の想いを伝えるように工夫して修復している

鏝絵の技法・制作工程

下絵「鷹」
（石川梅尾氏遺作）

⇒

下絵を石膏ボード
に写す

⇒

盛り上げ部にス
テンレスねじを
埋め込み麻紐を
渡す

⇒

石膏塗り

⇒

仕上げ漆喰塗り
⇒色づけ⇒完成

鏝（大半が鏝絵用に工夫をして改造している）

参考文献

市史研究第８号　　上杉孝良　　横須賀の漆喰彫刻　　平成21年３月
横須賀の鏝絵　　横須賀市観光ボランティアガイドの会
横須賀の鏝絵研究部会　　平成23年５月

取材協力（順不同・敬称略）

西叶神社　東福寺　常福寺　第六天榊神社　川間町内会館　法幢寺
浦賀行政センター　八雲神社　寿光院
辰巳忠志　石川秀幸　石川トヨ(故石川梅尾妻)

2011年10月１日発行

浦賀の鏝絵

編集・発行　浦賀探訪くらぶ

写真撮影　林義明

―　無断掲載・複写禁止　―